

## 平時

首の辺りがむずむずする  
死の予感、斬首の予感  
この首を撫でるのは誰だ

小心者め、何を怯えるか  
このだだっ広い安穩の下  
このだだっ広い自由の下

ああ、これは風の悪戯か  
いやいや首切り人夫だ  
放り出されたのだ、刑場に

誰もお前を狙っていやせぬ  
目を開くのだ、そして  
見るのだ、楽しげな街を

見えた、ああ、見えた  
俺らを狙っている  
あのボタンだ、指だ  
ああ、何と不気味なコントラバスだ  
ああ、踊れ、死の舞踏を

荒れ狂う火の中を、<sup>バス</sup>低音の上を

弱々しいピッコロに乗って  
俺は踊る、踊る、踊る

(1982.4.24)